

第 3 8 次日中友好長野県教育者訪中団実施スケジュール

10 月 25 日（金）成田

※ 大雨の為、東京ー成田間 交通網遮断の為、集合が大幅に遅れる

20：30 事前打合せ、夕食開始 ※ 団員最終到着時間 21：10

22：30 終了

宿泊：成田Ｕーシティホテル（千葉県成田市）

10 月 26 日（土）成田ー大連ー哈爾浜

06：00 朝食

07：00 ホテル発

07：20 成田空港第 1 ターミナル着

10：10 成田空港発（NH903 便）

12：15 大連空港着 ガイド尹宏さん出迎え

13：50 大連北駅着

15：34 大連北駅発（高速鉄道 G725 便）

20：10 哈爾浜西駅着 ガイド陳耀武さん出迎え

20：40 同発

21：10 ホテル着

21：30 市内レストラン（老関東鉄鍋）にて夕食

宿泊：モデルン賓館（哈爾浜市）

10 月 27 日（日）哈爾浜ー方正県

07：50 ホテル発

08：30 革命烈士陵園着

09：30 同上発

12：10 方正県着 方正県外事弁公室 張紅麗さん出迎え

12：40 日本人公募着

13：40 同上発

14：00 昼食（夜明珠大酒店）

15：00 同上発

18：40 ホテル着

19：00 ホテルから徒歩のロシア料理店にて夕食（西餐庁）

20：30 ホテルへ

宿泊：モデルン賓館（哈爾浜市）

10月28日（月）哈爾濱

08：00	ホテル発
08：30	黒龍江省教育庁表敬訪問（～9:30）
10：30	哈爾濱師範大学着
11：50	教員食堂にて昼食（～13:20）
14：10	哈爾濱花園小学校着 視察（～15:00）
15：20	ホテル着 休憩
16：00	ホテル発
16：30	哈爾濱駅着 安重根記念館前まで散策
17：10	龍門貴賓楼（旧ヤマトホテル）着後、哈爾濱師範大学の学生との答礼夕食宴
19：30	同上発（ホテル帰途途中ソフィア教会立寄り）
20：20	ホテル着

宿泊：モデルン賓館（哈爾濱市）

10月29日（火）哈爾濱－石家莊

06：00	ホテル発
06：40	哈爾濱空港着
08：45	哈爾濱空港発（3U8125 便）
11：05	石家莊空港着 河北省教育庁関係者出迎え
12：00	市内レストラン（湘君府）にて湖南料理の昼食（～14:00）
14：55	石家莊市特殊教育学校着 視察（～17:00）
18：00	ホテル着
19：00	ホテル発
19：20	市内レストランにて河北省教育庁歓迎宴（21:30）
21：40	ホテル着

宿泊：中茂海悦酒店（石家莊市）

10月30日（水）石家莊

08：40	ホテル発
09：10	石家莊市第四十二中学校着（中高一貫校）視察（～11:30）
11：50	市内レストランにて石家莊市第四十二中学校関係者と火鍋の昼食
13：00	同上発 徒歩でスーパーへ（～14:20）
15：00	河北芸術職業学院着 視察（～18:30）
18：45	ホテル着
19：30	ホテル宴会場にて答礼宴（～21:30）

宿泊：中茂海悦酒店（石家莊市）

10月31日（木）石家荘ー北京

07:50	ホテル発
08:20	石家荘駅着
09:35	同上発（高速鉄道 G606 便）
10:54	北京西駅着 ガイドの陳征さん出迎え
11:30	同上発
12:20	北京市内レストラン（新疆大厦）にて新疆ウイグル料理の昼食（～13:40）
15:30	世界遺産「明の十三陵」着（～17:00）
17:30	世界遺産「万里の長城（八達嶺）」着（～18:50）
20:30	北京ダック専門店（大董烤鸭）にて夕食
21:50	同上発（ホテル帰途途中、天安門、天安門広場車窓観光）
22:30	ホテル着

宿泊：京倫飯店（北京市）

11月1日（金）北京

08:30	ホテル発
09:00	世界遺産「故宮博物院」東華門着（～12:05）
12:20	市内昼食レストラン（金鼎軒）にて広東飲茶（点心）の昼食
13:30	世界遺産「天壇公園」着（～15:25）
15:50	琉璃廠着（着後、書道関係のお店を見て胡同を抜けて前門大街へ移動、買物）
17:50	同上発
19:00	市内レストラン（南京大牌档）にて南京料理（江蘇料理）の夕食
21:20	同上発
21:50	ホテル着

宿泊：京倫飯店（北京市）

11月2日（土）北京ー羽田

05:40	ホテル発
06:10	北京空港着
08:25	北京空港発（NH964 便）
12:30	羽田空港着
13:30	解散

10月25日（金） 長野（各地）～千葉（成田） 天気：晴れのち豪雨 気温：14℃

「ある日の暮れ方のことである。一人の団員が千葉駅のホームの下で雨やみを待っていた。しかし団員は雨がやんでも、格別どうしようというあてはない。なぜかという、この日、昼前からの集中豪雨のため線路が冠水し、途中の千葉駅で電車を降ろされてしまったからである。」

予定では、この日は「最終打合せ・成田Uーシティホテル 17:20 集合」となっており、団員は長野県内各地から各自の旅程で集まる……はずであったが、その行程は皆、紆余曲折したものとなった。

長野駅 10:53 発の新幹線「かがやき」で東京へ。長野では青空も見えていたが、東京駅に着いた時には天気予報通り雨が強くなっていた。スーツケースを持っていたので、成田駅へは乗り換えのないJR総武線を選択。雨の様子が気になり、駅構内のレストランでの「優雅な昼食」は断念。売店で1年中限定販売しているカレーパンを購入、ホームで食べながら電車を待った。

雨の影響で、電車は20分程遅れて到着。不安が急成長。船橋駅を過ぎた辺りの車内放送「佐倉駅で線路が冠水したため、この電車は千葉駅止まりとなります。」で思考も止まる。降ろされた千葉駅では、激しい雨がホームと心に吹き込んできた。途方に暮れていると、構内放送「佐倉駅の線路の冠水は復旧の見込みがありません。成田空港へは、戻って船橋駅から京成電鉄の京成本線で行けます。」で判断能力も消えた。



激しい雨。なぜパンダ？

放送に従い、船橋駅へ戻る電車を待っていると「天上から、銀色の蜘蛛の糸が、一すじ細く光りながら、するすると自分の上へ垂れて」きた。堀内先生からの電話である。彼は東京駅にいた。状況を伝え、船橋駅で落ち合うことにして電車に乗る。暫くして堀内先生からメール「京成本線も冠水した。間地さん情報で北総線を使うから津田沼駅で降りて！」読み終わると同時に津田沼駅に到着。「蜘蛛の糸」は切れる寸前。改札口で堀内先生と合流すると、銀色の糸は赤に変わった。

2人でJRの駅ビルを出て、豪雨の中を新京成電鉄の京成津田沼駅まで、スーツケースを引いて5分ほど移動。折り畳み傘のおかげで頭以外が濡れただけだった。堀内先生の引率で新京成電鉄の新鎌ヶ谷駅まで移動し、北総線に乗り換えて印旛日本医大駅で下車。ここで間地さんと合流。雨は上がり、間地さんの背後には後光が輝いて見えた。（蓮の花には乗っていなかった。）

ここから京成スカイアクセス線で空港第2ビル駅を経由して成田駅を目指す。豪雨の影響で先行の電車が各駅で詰まり、1駅目の成田湯川駅でストップ。間地さん情報では、空港第2ビル駅でも電車が動かず、矢口先生たちが足止めされている。スマホの地図では、この駅からホテルまで約4km。我々3人はタクシーで行くことを決断し下車した。（矢口先生たちは人身御供として捧げる。）

駅前でタクシー乗り場を探していると、偶然、路線バスが入ってきた。なんと、行先には「成田駅西口」と表示されている。（人身御供の効果絶大。）15分ほどの乗車で18:30にホテルに到着した時には「安らかな得意と満足とがあるばかり」であった。（この時、団長・副団長を含む5名は「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」既に到着していた。）その後、各所で足止めされていた団員たち（や人身御供たち）が順次到着。全員が集まり、最終打合せが始まったのは3時間遅れの20:30からであった。



訪中の成功を祈念して乾杯

最終打合せは夕食会（親睦会）を兼ねて行われ、団員の自己紹介、信濃教育会の勝山先生の激励のお話、倉石団長の決意表明があった。この打合せで初めて全員が顔を合わせたのだが、会は楽しく盛り上がり、明朝の早い出発など意に介さず団結を深め、23:00に「お開き」となった。

（早川 清志）

10月26日(土) 東京・成田～大連経由～哈爾濱 天気：晴れ 気温：5℃(哈爾濱)

前日より成田Uーシティホテルに宿泊。5:40頃起床、ホテル内で6:00頃より朝食を取り、6:40にロビー集合。前日の混乱もあり、空港まで電車で行くかホテルのシャトルバスを利用するかを迷ったが、朝から特に問題なく車が動いているとのことで、シャトルバスにてホテルを7:00に出発。嵐が去って、天気よし。

成田第1ターミナルに到着し、お見送りしていただいた事務局の勝山先生とお別れ。出国手続きも無事完了。荷物係の先生はお土産を準備し、他の者はちょっと買い物したり休憩を取ったりしつつ、出航の時間に。全日空NH903便にて10:10出国(実際は、遅れて11時頃発)、いよいよ中国へ。約3時間20分のフライト。

飛行機の窓から、高層ビルが林立する大連の風景が見え始めた。ほどなくして、大連の空港に到着(予定より少し遅れて12:15頃)。いよいよ中国の地に降り立った。澄み渡る青空。晴天に恵まれ、幸先良いスタートに旅への期待感が赤丸急上昇。空港から、ガイドの尹さんと共にバスに乗り、高速鉄道乗車のための大連北駅に向かった。車窓から大連の街並みを見ながら、尹さんから大連のお話をお聞きした。大連は「海鮮が有名」だとのこと。大連でも食事をしたりとゆっくりできたらよいが、そうもいかず、30分程で駅に到着。大連北駅は、新幹線用に新しく造られためっちゃめっちゃ大きな駅であった。さすが中国! なにもかもが、とにかく大きい! 間地さんの案内で搭乗手続きを済ませ、しばしの自由時間となった。たくさんの売店があり、中国ならではのお菓子や飲み物に、みんな興味津々。ここからまた4時間以上の新幹線の旅に、どうしようか? と思ったところに隊長から許可があり、軽いアルコール飲料も購入。驚いたのは、待合室の座席が、座ると同時に勝手に背中をマッサージしてくれること。言葉も仕組みもわからず、後から代金を請求されても困るので、せっかくのマッサージ(席)は、早々にご遠慮、ご退席。

予定通り、新幹線(高速鉄道G725号)は15:35に出発。新しい新幹線の席、そして1等席ということで、乗り心地もよく、軽く飲食したり歓談したり、外の景色を眺めたりしながら、いつの間にか4時間半ほどの電車の旅も終了。事前研修の折に「寒いよ!」と言われて、少し恐れていた哈爾濱。電車で外気温表示があり、大連では15℃ほどであったが、電車が北上するごとにどんどん下がり、哈爾濱ではついに5℃。やっぱり寒い。

寒さを感じつつホームを歩き、哈爾濱西駅の外に出ると、ここでもガイドの方が待っていてくれた。名前は陳さん。日本語のとても上手な、優しい(実際優しくかった)大きな男性であった。ここからまたバスに1時間弱乗り、宿泊先の馬迭爾賓館(モデルン賓館)へ。陳さんより、哈爾濱の交通事情(クラクションは法律で禁止…ホント?! 運転は、勇気がある者が勝ち…ホント!! 等々)や食事情、哈爾濱ビールの話などをお聞きしているうちに到着。ホテル馬迭爾賓館は、元々ロシア人の建築だったそうで、大変趣のある建物であった。ホテル内外には、美味しいパンやアイスクャンディを売る有名店があるとのこと。



豪快な鍋の調理。店内の様子。そして…哈爾濱ビール!



チェックインして荷物を部屋に運び入れ、いよいよ中国での初ディナー。店名「老関東鉄鍋」、東北鍋を供する新しい店だった。店内に入ると、そこには切られたサメの頭。やっぱり中国である。鍋の調理も豪快。客のいるところで店員さんが普通にアイスを食べる景色も豪快。さすが中国である。それはさておき、この日から連日並んだ哈爾濱ビール。陳さんのお話の通り、アルコール度数が低くて飲みやすいこともあり、ごくごく飲めた(私だけ!?)。美味しい! 美味しい! 東北鍋とビールを味わいつつ、いつしか哈爾濱の夜は更けていった。(吉嶋 哲男)

10月27日（日） 哈爾濱～方正 天気：晴れ 気温 3℃（最高気温 10℃）

朝 5 時 15 分に目覚める。今日は慰霊に向かう特別な日だと思うと、心持ち緊張する。

今朝は松花江のほとりまで、希望者で散策に出かけることになっている。昨日の情報通り、冷え込んだ朝になったが天気は良い。コート等で厚着をし、6 時にロビーに集まって、添乗員の間地さんの案内で歩き始めた。中央大街は美しく花崗岩が敷き詰められている。空は明るく、人々も活動を始めていて街に活気がある。大きな地下道を通り抜けると間もなくだ。ホテルから 15 分ほどで到着した。

対岸まで 1 km ほどもある松花江。黒龍江の支流だという。広々として穏やかな風景である。堤防が公園になっていて、防洪勝利記念塔という大きなモニュメントがある。（注：「記念」は中国では「紀念」と記される。）公園内にはおそろいの服を身に着けて太極拳を楽しむ人たちがいた。

帰り道、市場を通った。新鮮そうな野菜や果物を、道ばたに山と盛り上げて売っている。この地域ではリンゴやカキが特産だという。湯気の上がる粥の店に行列ができていて、おいしそうだった。

革命烈士陵园

途中で花を買い求めてから革命烈士陵园へ。入り口に柵と警備員室があり、政府の許可がないと入れないようになっている。ここには石碑と、勇敢に戦った兵士や将軍らの墓がある。倉石団長の献花に続き、全員で黙祷を捧げた。国家の為に命を捧げたという数多くの人々に思いを馳せた。



烈士陵园の碑の前で

方正県・中日友好園林

バスに乗り、高速道路で東に向かった。方正県（ほうせいけん）と言われる地方である。「ほうまさ」という呼び方をしていた日本人もいたようで、ガイドさんも両方使っている。哈爾濱から離れるほどに、風景は一面のとうもろこし畑から水田に変わっていく。この辺りの風景は信州に似ていると感じた。

小さな車に乗り換え、日本人公墓へ。中日友好園林と呼ばれている。普段は鍵のかかった敷地へ入った。中は静かな松林になっているが、柵の周りは白樺が生え、ここでも信州を感じた。

日本人公墓は日本式の墓石と、円形の墓でできている。円形は中国の風習である土まんじゅうの墓を模しているそうである。方正地区・麻山地区二つの公墓の前に二人ずつ並び、それぞれが祈りを捧げた。

養父母の墓には団長先生が代表で献花をし、一人ずつ手を合わせた。また方正県に稲作の技術を伝え、表彰された藤原長作氏の墓にもお参りをした。その後資料館に立ち寄り、当時の遺留品や慰霊に訪れた人々の贈った品、方正県の紹介資料等を見学した。大陸に眠る数多くの人々と、その魂を慰めようと努力した人々の思いがここにある。人々の思いを強く感じた時間だった。

昼食・再び哈爾濱へ

大事な務めを果たし、夜明珠大酒店という店で昼食。方正県は米作りが盛んで、食事に出た白米は日本の味とほぼ同等だと感じた。バスの車窓からは、大地の向こうに沈んでいく夕日を眺めることができた。

夕食はロシア料理の店へ。バンド演奏のある雰囲気の良い料理で、肉・野菜・魚、どれもおいしかった。その後は夜の哈爾濱・松花江を散策。ロシア時代の雰囲気が今も残る街の夜景は、とても美しかった。



夜の中央大街

（中嶋 篤泰）

10月28日(月) 哈爾濱 天気：晴れ 気温：2℃(最高気温12℃)

朝は2℃で肌寒い。バスで黒龍江省教育庁へ表敬訪問の為出発。銀行や、新聞社など旧満州時代の建物を眺めながら移動。高層ビルの立ち並ぶ街にリヤカーを引くおじいさんがいるなど昔と現代が混在している。

そびえ立つ黒龍江省教育庁



教育庁では張さんが、黒龍江省と長野は農業や林業が盛んな事、共に冬の大きな大会を開催している事、冬の様子(雪山、氷祭り)等の共通点を挙げ、さらに今後も日本との交流を図っていきたいとのお話をして下さった。また、農業等の機械化に伴う人口流出(特に若者)問題や地域の



玄関で寝転ぶおじさん。鷹揚なのかそのままにする警備の人

教育格差解消の為の教員派遣、インターネットなどでの遠距離教育に力を入れている旨などを教えていただいた。



中国語で挨拶する訪中団団長

広大な敷地の哈爾濱師範大学



団員による
ハーモニカ演奏



巨大なフードコートの様な学食

師範学校では日本語の授業を参観。

生徒達と日本語で話す機会を得た。日本語の流暢さにびっくりする。

皆、日本の文化などに興味を持ち将来通訳や日本語の教師を夢見ている。ありがたい事だと思う。

お昼は日本語の教授や生徒達と楽しくお話をしながら学食で会食。

小学生からの熱烈歓迎



小学校の校長先生のポエム

「生徒は種、

教師は種を育てる農業人」

国は違えど同じ教育者として

目指すものは同じ。お互いに

頑張りたいと思いました。音楽の授業では

子ども達の真っ直ぐな歌声に感動。

書写の時間：中国の筆は縦に持つ。体験では持ち方から直されました。(笑)



生徒の持つ力をどこまで伸ばせるか、その実践の様子を垣間見ることができました。

夕食会 予定していたレセプションが夕食会に変更になる。団の青年部(?)が中心となり師範学校生と共に日本語で米津玄師の「lemon」を歌う。我々の特訓している歌3曲は後日の披露となった。



歴史ある大和ホテルにて



贈った羽根突きの実践。
上手く出来るかな?

(神林 久子)

10月29日（火） 哈爾濱～石家莊 天気：晴れ 気温：1℃（哈爾濱）

5:45 ロビーに集合し、哈爾濱空港に向かう。朝食はホテルが用意した弁当をバス内でとる。中身はパン2切れに、ゆで卵、ハム、ソーセージ、そして袋入りの牛乳。決してパックではない。どうやって飲むことを想定しているのか分からない。流石です。



しばらくして空港着。間地さんから、「中国の空港は厳しいから」と言われてはいたが、想像を越えていた。成田で手荷物がひっかかった私としては、名誉挽回したいところである。「金属類や時計などは外して上着のポケット入れるように」とも言われ、従う。液体もチェックが厳しいので、忘れずに水の入ったペットボトルも取り出した。…つもりだった。バッグを底の方まで探られ、自分自身入れた覚えのないペットボトルがもう一本入っており、怖い顔で睨みつけられた。「これは何だ!」と言わんばかり。身体検査も厳重である。上着を脱ぎ、服をめくられ、ベルトのバックルまで確認された。国内線でここまでするのかと驚く。

機内。軽食が配られたが、間地さんは食べないらしい。箱を開けると、ヨーグルトとパンケーキ、しょっぱい漬け物が入っている。もう一つの入れ物は何やら熱い。ふたをめくると、中身は何とお粥。米ではない。キビだと思いが味がないために、漬け物をぶち込んで食べてみる。こぼさないように食べることをだけを心がけて食べた。

石家莊着。気温は16℃だったと記憶している。石家莊では王さんにお世話になる。ゆっくりと昼食をとって、14:00に石家莊市特殊教育学校へと出発。

到着してまず目に入ってきたのは、人工芝のグラウンドである。新しく大きな校舎も立派だ。31クラスもあり、先生も121人いるという。知的障碍（この字を使用）、盲、聾の生徒が通う。「職業訓練」も総合的に行うという校長先生の説明だったが、日本の特別支援学校で一般的な作業学習のことであろうか。基礎教育では盲・聾生徒の大学入試クラスを設置し、河北省では大学進学率が最も高いそうである。

熱烈の歓迎を受け、生徒たちがいくつも発表をしてくれた。盲目の少女たちによるドラム演奏や歌唱、聾の生徒たちによるダンスは実に見事であった。目が見えないのに的確にドラムを叩いたり、耳が聞こえないのに一体になって音楽に合わせて激しく踊ったりする姿から、練習に並々ならぬ多くの時間を割いてきたことが想像できる。「普段は暗い世界にいますが、かたつむりのように…」という曲紹介が胸に響く。



盲・聾生徒の授業の様子も見学させてもらった。知障学級は見れず。

- ・「律動教室」… 床が音楽のリズムを振動で伝えたり、光も呼応するような仕組みになっている。音を「感じるもの」「見るもの」にすることは、音をキャッチできない子たちにとって、どれだけ彼らの世界を広げることになるだろうか。すばらしい手立てとなっている。
- ・「職業訓練」… 長野県の特別支援学校でも一般的な作業学習の授業に加えて、ネイルアートや理容師の技術を習得する授業を選択できる生徒もいる。卒業生には店を開いたり就労につながったりする生徒もいるというから、まさに「訓練」といえる。手に職をつけて社会に出るというニーズに応えられていることは間違いない。

（向山 富士夫）



10月30日（水） 石家荘 天気：晴れ 気温：24℃

7時にモーニングコール。5つ星の豪華なホテル「中茂海悦酒店」で、ゆっくり休むことができた。高層階の部屋からはきれいな朝日を望むことができた。この日は、訪中団にとって一番緊張する一日のスタートである。



高校生の行進の様子

8時40分にホテルを出発。バスに乗って、石家荘市第四十二中学校へ向かった。第四十二中学校に到着すると、校長先生始め、多くの先生方に出迎えていただいた。「熱烈歓迎…」と書かれた大きな電光掲示板に圧倒された。最初に見学したのは、朝の行進の場面。高校生2,000人、中学生3,000人がグラウンドに集まってきた。そして、音楽に合わせて見事な行進。続いて、ランニング。某大学の集団行動のように、ぴったりと揃った動きに圧倒された。寮や食堂を見学した後、先生方との懇談を行った。第四十二中学校は、国際学校としても力を入れており、創立から26年間で様々な特色を持つ学校へ発展していった様子がよくわかった。ここで、あの話題となった横田委員長の写真が撮影された。授業は、高校生の英語、生物、物理を参観した。日本で言えば20年前のような一斉授業。教室一杯の生徒と机の上に積まれた教科書や参考書、黒板に書かれた一日9コマの時間割が衝撃だった。

昼食は、火鍋屋さんへ。私たちの口に合う、豚肉と羊肉のしゃぶしゃぶを頂いた。食事の後、地元のスーパーマーケットへ。お茶やお菓子などを爆買い。たくさんのお土産を買うことができた。

午後は、河北芸術職業学院を訪問。音楽、舞踊、芸能に関わるあらゆる分野のプロを養成している学校である。先生方との懇談の後、中国楽器をはじめ、音楽の演奏、京劇、伝統芸能やダンスなど、素晴らしい発表をそれぞれ披露してくださった。完成されたステージでの鑑賞とはまた違い、生徒たちとの距離が近く、息づかいが間近で感じられて、とても感動するものだった。



中国楽器の演奏



京劇の様子



レセプションの様子

夜は、本団主催のレセプションが宿泊しているホテル「中茂海悦酒店」内で、河北省教育厅の劉処長先生、特殊教育学校の李校長先生、第四十二中学校の張副校長先生、芸術職業学院の趙書記長先生などをお招きして行われた。英語や王先生の通訳で中国の先生方との交流が深まり、何度も乾杯を交わしながら和やかな雰囲気の中でレセプションは過ぎていった。

レセプションの後、ホテルから歩いて10分ほどの店で二次会を行った。間地さんが注文してくれた料理の中に、セミのさなぎの揚げ物あった。ビールや白酒を飲みながら、中国での日程の中で、最も緊張した一日の慰労をした。

（矢口 紘史）



第四十二中学校の掲示板



話題の一枚



大きなスーパーで買い物

10月31日（木） 石家荘～北京 天気：晴れ 気温 14℃→24℃

ホテルでバイキングスタイルの朝食を食べて、7:50にホテルをチェックアウト。つぎは、北京に向けて出発。石家荘駅では、王さんと張さんとお別れ。握手をしたり、記念撮影をしたりして別れを惜しんだ。2人とも、私たちの姿が見えなくなるまで見送ってくれた。謝謝！

新幹線に乗り込み、午前中はほぼ移動で終わった。石家荘でも北京でも、天気恵まれ例年より暖かく過ごすことができた。北京では、ガイドの陳さんと合流し、いよいよ観光へ！

『明の十三陵』

ここには、明代の13代目の皇帝のお墓があるとのこと。最初に目に入るのが、たくさんの屋台。カップラーメンやひょうたんに入った飲み物!?など様々なものが売っており、賑やかで楽しい雰囲気。そして、屋台を抜けていくと、だだっ広い広場へ。その先には赤い門や亀の石像などがあつた。亀の石像を撫でるために石像の方へ。亀の石像にさわると、幸運が舞い込むらしい。手を伸ばしてさわってみる。何かいいことがありそう。そして、陳さんの丁寧な説明を聞きながら、あの世行きの門をくぐり、階段で地下27mまで下って皇帝と2人のお后さんの真っ赤な柩や宝箱や王座などがある場所へ。宝箱の中には、翡翠がたくさん入っていたとか。翡翠は、錆びたり傷んだりしないので縁起の良いものとされ、当時は金よりも良いものとされていた、などと陳さんによるガイドで、さまざまな歴史的なことも知ることができた。



亀の石像をなでる



万里の長城にて

『万里の長城』

個人的に、今回の旅行で一番行きたかった場所が万里の長城。道すがら万里の長城が見えてくると、バスの中で歓声があがったり、カメラのシャッター音がたくさん聞かれたりした。陳さんより集合時間と場所の説明のあと、自由行動開始。男坂と女坂があつたが、女坂の方が景色がよいということで、みんなで女坂へ！

ちょうど日暮れどきの時間。「夕日が落ちる前に登るぞ～」と意気揚々と登っていく先生方や「きれいな景色と夕暮れのコントラスト」を写真に収める先生方。思い思いに楽しい時間を過ごした。

夕食は『北京大董烤鴨店』にて、北京ダックをいただく。皮のパリパリな部分は、ざらめをつけて。そして身のしっとりとしているところは、きゅうりやネギと一緒に皮に巻いてタレをつけてパクリ。本場の北京ダックは、好吃！！お腹も満たされ、つぎはホテルへ。…と、その前に陳さんとバスガイドさんのご厚意で、ちょっと寄り道して天安門広場をバスの中から見せていただいた。TVでよく見る天安門広場。とっても広くて、やっぱり中国は広大なぁ～と感じながら31日の夜は更けていった。



北京ダック、好吃！

(柳澤 真理子)

11月1日(金) 北京 天気：晴れ 気温 16℃

6:00 起床。京倫飯店で朝食をとり 8:30 に出発。いよいよ旅も終盤…。北京市内の観光の日。太陽は出て晴れているが、昨日ほど暖かくはない。

【故宮博物院】

みんなとはぐれたら「神武門」のところで待っているように、ガイドの陳さんから言われたが、観光名所だけあり、本当にたくさんのお客でいっぱいだった。世界最大の木造建築群であり、世界遺産に登録されている故宮。1日に約8万人が訪れるらしい。端門～天安門までは約5km。中国は何でもスケールが大きい！



【天壇公園】

明・清代の皇帝が天を祭って五穀豊穡を祈る場所として造られた天壇。春節には皇帝がここを訪れるそう。天壇までのところでは、広場でスポーツを楽しんだり、お年寄りたちがカードゲームや将棋のようなボードゲームを楽しんだり…。北京の人たちの娯楽の場となっているようだった。

円形の段は九重からなり、中央から扇状に広がる石板の数も「9」の倍数。

【「金鼎軒」にて昼食】

たくさん歩いたので「完食できそう！」と、海老餃子や小籠包…。美味しい飲茶をいただいた。天壇公園の近くにあるだけあって、外にはたくさんのお客さんが予約待ちをしていた。みんなで円卓を囲んで食事をするのもあとわずか。



【琉璃廠を散策】

琉璃廠は、世界でも有数の骨董品・文房四宝の街。清代の街並みが再現され、筆やすずりなどの書道用具や掛け軸などをはじめ、宮廷で使われていた基調な骨董品が売られていた。私たちがイメージする「The 中国」という感じの建物が並び、路地の感じも趣が。書道道具やしおりなどの文具をお土産用に購入。ショッピングはやっぱり楽しい！旅行の醍醐味でもある。みんな満足げな表情でバスへ乗り込む。

【前門大街を散策】

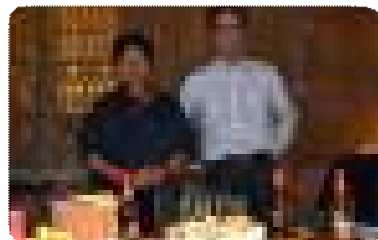
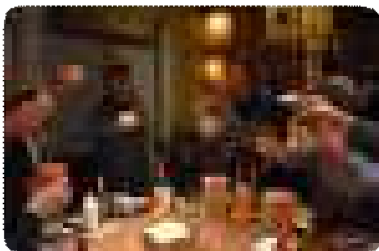
食べ歩きできそうな店や雑貨・菓子などのお土産屋が立ち並び、たくさんのお客で賑わっていた。北京オリンピックに合わせて、前門大街では大規模な再開発が行われたようで、その目玉として1958年まで運行されていた路面電車が再現されていた。集合時間の頃には夕暮れ時になり、ライトアップした街がより中国らしさを増していた。日本の中華街に似ているかな？



【最後の晩餐】

「南京大排擋」で夕食。立派な箱に入った紹興酒をいただく。…サプライズで大きなケーキが登場！金田先生・堀内先生のお誕生日をみんなで祝福！旅の思い出を語りながら、美しく中華料理をいただいた。

(小野澤 華奈子)



金田先生・堀内先生
Happy Birth Day!!

11月2日(土) 北京～羽田 天気：晴れ 気温：20℃(羽田)

4:30に起床。この中国滞在中、一番つらい目覚めだった。昨日、景色の良いバーで飲みすぎてしまったな・・・と思いながら、ベッドから起き上がった。自分でもよく起きられたとほめてあげたい。その後、急いで支度しつつ、スーツケースの中に荷物をつめた。集合時間までにロビーへ行くと、もうすでに皆さんバスに乗っていて、急いでバスに飛び乗った。出発時間が早く、朝食バイキングが食べられないということで、ホテルで用意してくれた軽食をバスに揺られながらありがたく食べた。軽食の内容は、パンとそれ用のジャムとバター、チーズサンドイッチ、バナナ、ゆで卵、水だった。朝おなかがすいていなかったということもあり、3分の1は残してしまったが、おいしく頂いた。特に個人的に、チーズが挟まれているサンドイッチが好みの味だった。チーズの味が濃厚で、今思い出してもまた食べたくなる味だった。朝食を終えバスの窓をながめると、もう中国滞在は終わってしまうという寂しい気持ちに浸っていた。また、中国にいる間、助けられたり支えられたりと多くの人に救われたことに、感謝の気持ちがあふれてきた。



最終日の朝食



空港で電車を待っている様子

空港に着くと、空港内の電車に乗り、自分たちが乗るターミナルへ移動した。待っている間、なんて大きな空港なんだろうと思い、この空港の雰囲気も忘れぬよう目に焼き付けた。電車を降りたあと、搭乗時間まで1時間ほどあったので、免税店で買い物をした。私は、昨日、訪れたお土産店で、持っていたお金をほとんど使ってしまった。その結果、8元しか持ち合わせていなかったの、空港では何も買うことができなかった。だが、中国にいる間、お金を使い果たするのが目標だったので、達成することができ、満足した気持ちだった。

免税店を一通り回り、搭乗ゲートの近くで、搭乗時間になるまで待っている間、今回の研修の思い出に花が咲いた。思い出してみれば、どれも新鮮な経験で、おなかを抱えて笑ってしまったエピソードもあった。そういった一つひとつの経験や出来事が、私たちの中でずっと残る思い出になるだろう。決して忘れることのできない研修になった。搭乗する直前まで話は尽きなかった。そのおかげで、中国をあとにする寂しさは、それ程込み上げてはこなかった。そうしているうちに時間になり間地さんの指示で搭乗した。



空港で待っている様子

日本に到着し別れの時間となった。今回の研修でお世話になった先生方、間地さんとの別れに涙しそうになった。幾度となく皆さんに助けられ、時には優しく見守られたおかげで、今回の研修で自分に自信がつき、中国に行く前より断然、自分の意見や気持ちを大事にしようと思うようになった。解散前に、皆さんのLINEを聞き、グループを作る使命を受けた。この時、皆さんとのLINEの写真の共有や、やりとりが楽しみだったのを覚えている。次に会う反省会の日、皆さんで思い出を語ることを今から楽しみにして、また来週からの授業のことを考えるとする。

(古畑 真優)